

夢童

菅波 茂

08年3月3日にA M D

Aネパール支部長のレグ
ミ医師からメールが届い
た。「ネパール東部ジャ
パ郡にあるブータン難民
キャンプで大火災が発生
生。死者はいないが、竹
などで建てられた家屋の
約9割が焼失、8000
人〜1万人が住む場所を
失って被災生活を余儀な
くされている。冬のため、
医療のみならず毛布や衣
類も不足している。A M
D Aネパール支部は、キ
ャンプ内診療所で負傷者
を治療するとともに、生
活資金の提供や毛布の配
布など支援を開始した。
本部の緊急支援をお願い
したい」と。5日に本部
から館野和之調整員を現
地に派遣し、被災調査と
資金提供をした。

92年に大量のネパール
系ブータン人がブータン
から難民となってネパー
ルに逃げてきた。原因は

ネパール系ブータン人に
よる民主化運動だった。
ブータンに移住してきた

ネパール系ブータン人
は、チベット系ブータン
人に匹敵する数であっ
た。民主活動とは数の世
界だった。危機感を抱い
たチベット系ブータン人
との紛争によって、ネパ
ール系ブータン人が難民
となった経緯がある。A
M D Aネパール支部は、
難民キャンプに最初に医
療チームを派遣した医療
系団体だった。付近にあ
る公立病院にはネパール
支部の会員もいた。当然、
難民キャンプ内の保健医
療活動は、国連難民高等
弁務官事務所（U N H C
R）によってA M D Aが
指名されると思ってい
た。意に反して、ジュネ
ーブに本部があるU N H
C Rはセイブ・ザ・チル
ドレンU Kと保健医療活
動の契約を結んだ。大き
な問題が発生した。多く
の難民たちが難民キャン
プの外にある公立病院を
受診したため、診療機能

ネパール・ブータン難民キャンプ大火災

がパンクして地元住民の
不満が爆発した。U N H
C Rは難民キャンプ内し
か権限が認められていな
かった。A M D A本部と
ネパール支部は、日本の
外務省の資金や善意の寄
付金を得て、第二次医療
センターをダマック市内
に開設。重傷を負った難
民の治療にあたった。現
在、A M D Aダマック病
院は地域の基幹病院とし
て、約100床の入院の
みならず看護師や検査技
師の養成学校を併設する
までに成長している。U
N H C Rは、難民の治療
に不可欠なこの病院の運
営費を支援してくれてい
る。

難を共にしたパートナー
シップゆえだった。そし
て、世界の紛争地や災害
被災地にA M D A多国籍
医師団を派遣する時、本
部からの医師派遣要請に
は必ず応えてくれる律儀
さへの感謝が理由だっ
た。

A M D Aのスローガン
である「救える命があれ
ばどこへでも」を実現す
るA M D A多国籍医師団
の精神は、相互扶助であ
る。究極の相互扶助は、ま
さかの友が真の友」であ
る。ブータン難民キャン
プの大火災は日本のメデ
ィアにほとんど紹介され
なかった。それにもかか
わらず、A M D Aの活動
を支援していただいた方
々に厚くお礼を申し上げ
たい。メディアには紹介
されないが、A M D Aの
活動の歴史をひもとけ
ば、納得していただける
救済活動があることを理
解していただければ幸い
である。

A M D Aネパール支部
は01年から、セイブ・ザ
・チルドレンU Kに代わ
って、ブータン難民キャン
プの保健医療活動をU
N H C Rと契約し、全面
的な責任を担い、活動し
ている。死者ゼロにもか
かわらず、本部から館野
調整員を派遣したのは、
92年から16年にも及ぶ困

(A M D A代表)